

# 平成29年度 京都市立呉竹総合支援学校 後期学校評価アンケート結果分析

◎実施 平成30年1月

◎方法 各項目について「実現度」を4段階で回答。

◎回答率

	保護者	児童生徒	教職員
回答数	147	85	111
回答率	74.2%	42.9%	81.6%

\* 1家庭に1枚配布

◎分析結果

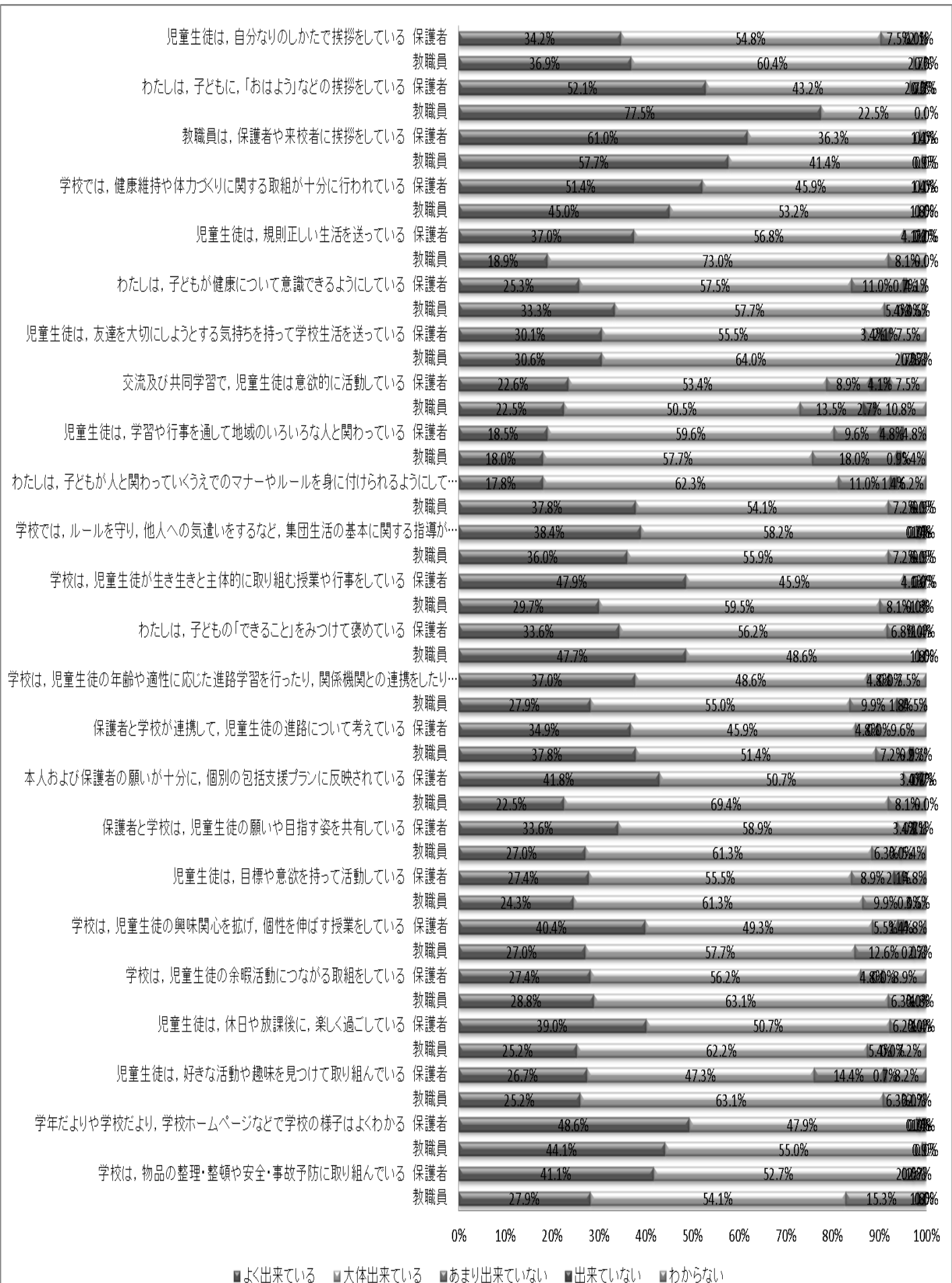
- ・【保護者】の表は、実現度の「よく出来ている」と「大体出来ている」の回答を合わせた割合（％）を学部別に表示しています。
- ・【保護者・教職員】のグラフは、実現度の、保護者全体の回答と教職員の回答を並べて表示しています。

【保護者・教職員】

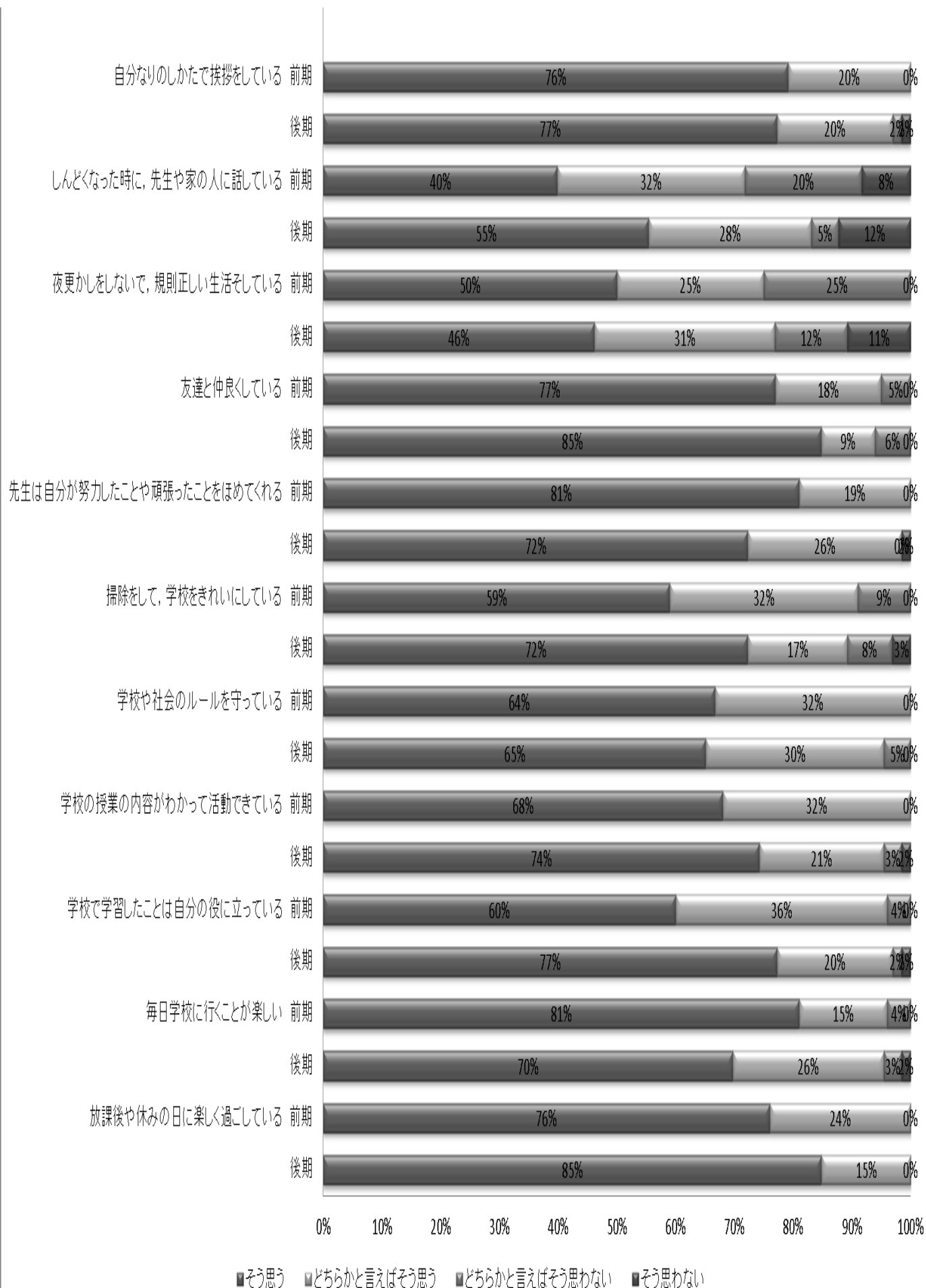
質問項目	小学部		中学部		高等部		保護者全体		教職員	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
◆元気に挨拶する										
・児童生徒は自分なりのしかたで挨拶をしている	78.1	87.2	88.6	94.4	84.3	87.3	86.0	89.0	95.8	97.3
・わたしは、子どもに「おはよう」等の挨拶をしている	100	100	97.1	100	94.2	90.1	96.5	95.3	100	100
・教職員は、保護者や来校者に挨拶をしている	100	97.5	91.4	97.2	98.3	97.2	98.2	97.3	97.5	99.1
◆丈夫な身体をつくる										
・学校では、健康維持や体力づくりに関する取組が十分に行われている	100	100	94.2	100	99.1	94.4	94.7	97.3	94.9	98.2
・児童生徒は、規則正しい生活を送っている	91.8	100	77.2	97.2	90.9	88.7	91.2	93.8	84.0	91.9
・わたしは、子どもが健康について意識できるように取り組んでいる（「しんどい」ことを伝える、薬を飲む、体力づくり等）	83.5	82.0	60.0	80.6	81.0	84.5	82.5	82.8	83.9	91.0
◆人を大切に し 共に生きる										
・児童生徒は、友達を大切にしようとする気持ちを持って、学校生活を送っている	71.9	76.9	79.4	83.4	82.4	91.5	83.9	85.6	91.6	94.6
・交流及び共同学習で、児童生徒は意欲的に活動している（居住地校交流、桃山小学校・桃山中学校・鳴滝総合等との交流及び共同学習等）	80.3	76.9	48.5	66.6	60.4	80.3	63.2	76.0	69.7	73.0
・児童生徒は、学習や行事を通して地域のいろいろな人と関わっている（地域の施設等での校外学習、実習等）	74.7	66.7	77.2	75.0	73.2	86.0	72.4	78.1	78.1	75.7
・わたしは、子どもが人と関わっていく上でのマナーやルールを身に付けられるようにしている。	60.5	69.2	60.0	75.0	69.7	85.7	71.4	80.1	86.6	91.9
・学校では、ルールを守り、他人への気遣いをするなど、集団生活の基本に関する指導が行われている。	83.1	97.4	82.9	97.3	89.3	95.7	91.2	96.6	91.6	91.9

	小学部		中学部		高等部		保護者全体		教職員	
質問項目	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
◆役割を担い 役に立とうとする										
・学校は、児童生徒が生き生きと主体的に取り組む授業や行事をしている	94.4	100	82.9	100	90.9	87.3	93.0	93.8	87.4	89.2
・わたしは、子どもの「できること」をみつけて褒めている。	89.0	92.3	80.0	91.7	79.3	87.4	80.7	89.8	95.8	96.3
・学校は、児童生徒の年齢や適性に応じた進路学習を行ったり、関係機関との連携をしたりしている	80.3	76.9	74.3	83.3	85.9	91.5	87.8	85.6	83.0	82.9
・保護者と学校が連携して、児童生徒の進路について考えている	82.1	64.1	84.4	77.7	85.4	91.5	85.7	80.8	87.7	89.2
◆願いや夢に向かって進む										
・本人および保護者の願いが十分に、個別の包括支援プランに反映されている	100	94.9	87.5	94.6	89.8	90.1	84.0	92.5	86.1	91.9
・保護者と学校は、児童生徒の願いや目指す姿を共有している	97.0	94.8	90.7	97.2	84.6	88.8	85.7	92.5	89.6	88.3
・児童生徒は、目標や意欲を持って活動している	81.2	82.0	78.1	86.1	79.3	81.7	76.8	82.9	91.3	85.6
◆興味や関心を広げ 心豊かに生きる										
・学校は、児童生徒の興味関心を広げ、個性を伸ばす授業をしている	94.0	97.4	84.4	88.9	78.6	85.9	76.8	89.7	87.0	84.7
・学校は、児童生徒の余暇活動につながる取組をしている	82.1	79.4	65.7	83.3	70.1	86.0	67.9	83.6	86.1	91.9
・児童生徒は、休日や放課後に、楽しく活動している	98.6	84.6	96.9	94.4	89.8	90.1	94.6	89.7	86.1	87.4
・児童生徒は、好きな活動や趣味をみつけて取り組んでいる	73.1	69.3	71.9	72.2	77.8	77.4	70.9	74.0	85.2	88.3
◆その他										
・学年だよりや学校だより、学校ホームページなどで学校の様子はよくわかる	91.3	97.5	93.8	100	96.6	94.4	92.9	96.5	98.2	99.1
・学校は、物品の整理・整頓や安全・事故予防に取り組んでいる	94.2	97.4	87.5	100	89.7	88.7	87.5	93.8	83.5	82.0

## 【保護者・教職員】



【児童生徒】



## ◎アンケート結果等より

### ◆元気に挨拶をする

○「児童生徒は自分なりのしかたであいさつをしている」の実現度の項目では、肯定的な回答（よく出来ている、大体できている：以下同じ）が保護者全体では 89.0%。教職員全体では 97.3%で、前期より実現度が上がりました。さらに、児童生徒対象のアンケート結果からも、「自分なりのしかたであいさつをしている」という項目で、実現度が 1 ポイントではありますが上がりました。日々の学校生活の中で、あいさつをする事を大切にして取り組んできた成果であると感じます。学校教育目標の中にある目指す子ども像に「元気に挨拶をする」という姿があります。2 月には、児童生徒会を中心にして今年度 2 回目の「あいさつ運動」が行われました。児童生徒一人一人が挨拶をする事に意識を向け、学校全体で気持ちの良い挨拶が交わし合えるよう取り組んでいます。自分らしく自分の方法であいさつができるよう、これからも取組を継続していきます。

また、「教職員は、保護者や来校者に挨拶をしている」の項目では、教職員の肯定的な実現度が前期より上がりました。しかし、まだまだ、保護者の方からの肯定的な実現度の向上には至らず、教職員一人一人の意識を高めていくことが必要だといえます。

### ◆丈夫な身体をつくる

○「わたしは、子どもが健康について意識できるように取り組んでいる（「しんどい」ことを伝える、薬を飲む、体力づくり等）の肯定的な実現度の回答が、小学部の保護者では、わずかに実現度が下がりましたが、その他の部では、すべてにおいて実現度が上がりました。朝の会等で、毎日の健康観察を行うことを通して、自分の体調に振り返り、自分の思いを伝える手段を獲得してきていることがうかがえます。1 月半ばより本校ではインフルエンザが蔓延しました。その際には、児童生徒の方から、「さむいです。」や「体が重いです。」などと、自分の不調を身振りやサイン、言葉等で担任へ伝えられる児童生徒がたくさんいました。これからも、自分の体調を振り返るということを通して、自分の健康に意識できるように取り組んでいきたいと思ひます。

### ◆人を大切にし、共に生きる

○「交流及び共同学習で、児童生徒は意欲的に活動している（居住地校交流、桃山小学校、桃山中学校、鳴滝総合等との交流及び共同学習）」の実現度の項目では、保護者からの肯定的な回答が、小学部では、わずかに下がりましたが、中学部、高等部では 20 ポイント程度も実現度が上がりました。前期の時点では、交流及び共同学習が未実施であったため、内容や様子が分かりにくく肯定的な回答が低かったと推測されます。今年度も、小学部から高等部にかけて、子ども達の実態に合わせて、様々な学習が行われていきました。小学部では、居住地校との交流及び共同学習や、桃山小学校との学校間交流を、活動に工夫をして取り組みました。中学部では、桃山中学校との学校間交流や府立盲学校との交流及び共同学習を行いました。高等部では、ワークスタディで府立桃山高校の文化祭に参加したり、鳴滝総合支援学校のメンテナンス班と交流学習を行ったりしてきました。本校の児童生徒の実態はさまざまですが、児童生徒が意欲的に活動し、その子らしく過ごせる力をこれからも育めるよう、学習の機会を設定し取り組んでいきたいと考えます。

○「わたしは、子どもが人と関わっていく上でのマナーやルールを身に付けられるようにしている」の項目と「学校では、ルールを守り、他人への気遣いをするなど、集団生活の基本に関する指導が行われている」の実現度の項目において、小学部から高等部にかけて保護者全体と、教職員全体の肯定的な回答が上がりました。この結果から、今年度は家庭と学校が連携をとって子どものより良い姿を目指して学習が進められてきたことがうかがえます。ルールやマナー、集団生活の基本に関する指導は、家庭や学校だけで取り組めることではありません。これからも、ご家庭と連携協力をしながら、子にとって必要な力を見極めて、児童生徒の理解を深め行動できる力を育ていけるように進めていきたいと考えます。

### ◆役割を担い、役に立とうとする

○「わたしは、子どもの「できること」をみつけて褒めている」の実現度の項目において、全ての部の保護者と、教職員全体に於いて肯定的な回答が上がりました。授業参観等のアンケートからも、「子どもがたくさん褒めてもらっていることに感動し、家でももっと褒めたいと思ひます」や、「先生からほめてもらってうれしそう

な顔を見ることができました」といった感想をいただきました。子どもだけでなく、誰しも、褒められることや認めてもらえることはうれしいことだと思います。児童生徒にとって、たくさんの友達や指導者の前で褒められる経験は、その子の自己肯定感を高め、その子が自己有用感を味わうことができる大切なことであるといえます。これからも、指導者が目の前の子の一人一人個性を十分に把握・尊重し、褒めて伸ばす教育が行われるよう励めていきたいと思っています。

○「保護者と学校が連携して、児童生徒の進路について考えている」の実現度の肯定的な回答が、小学部、中学部の保護者で下がりました。この結果より、今年度も学習会や、施設見学会などの取組を進めてきていましたが、まだまだ十分ではなかったと言えます。小学部、中学部の保護者にとっては、まだ先のこととして漠然とした思いもあったということも言われますが、今できることや、今を充実させることが、先の進路選択について、具体的に話を進めていけることに繋がります。これからも、日々の学習を大切にしながら、進路学習会や進路だより等を通して、情報を発信していきたいと思っています。

#### ◆願いや夢に向かって進む

○「本人及び保護者の願いが十分に、個別の包括支援プランに反映されている」の項目や「保護者と学校は、児童生徒の願いや目指す姿を共有している」の項目に於いて、小学部の保護者を中心にして教職員全体で実現度の肯定的な回答が下がりました。この結果は真摯に受け止め、改善していけるよう励んでいきたいと考えます。前回の学校運営協議会に於いて、個別の包括支援プランを作成更新していく際に、「保護者はどの程度の思いを担任に伝えていくのか、その視点の在り方については子どもの実態に応じてさまざまである」とご意見をいただきました。2月末より、小学部1年生から高等部2年生までの個別懇談会が始まります。今年度を振り返るとともに、次年度に向けて子に付けたい力を、担任と保護者で確認し合うことができる貴重な時間です。この結果を学校全体で共有し、1年後、3年後の子どもの姿を想定しながら、次年度の目標を設定をしていく有意義な懇談会になるようにしていきたいと考えています。

#### ◆興味や関心を広げ、心豊かに生きる

○「学校は、児童生徒の興味関心を広げ、個性を伸ばす授業をしている」の実現度の項目に於いて、小学部から高等部までの保護者の肯定的な回答が上がりました。児童生徒のアンケートからも、「学校で学習したことは自分の役に立っている」の実現度の項目に於いて、97%と前期よりさらに1ポイント上がりました。また、児童生徒アンケートの「毎日学校に行くことが楽しい」という実現度の肯定的な回答が前期と同じく96%ありました。多くの児童生徒が、学校生活を楽しみ、自分の役に立つ学習ができていると感じていることが分かります。これからも、教職員は、児童生徒がのびのびと生活できる環境づくりと意欲的に学習できる授業づくりに励んでいきたいと思っています。

#### ◆その他

○「学年だよりや学校だより、学校ホームページなどで学校の様子はよくわかる。」の実現度の肯定的な回答は保護者全体と教職員全体で上がりました。学部・学年だよりの写真が小さくて児童生徒の表情が見にくくというご意見もいただきました。熱心に見ていただいていることが分かり感謝しています。ありがとうございます。保護者様には個人の映像等の見にくさをご理解いただきながら、学年・学部での取組内容をお伝えできるよう、これからも丁寧に発信をしていきたいと思っています。また、学校ホームページにも、随時、子ども達の様子や、学校の取組を紹介しています。これからも忌憚のないご意見をいただければと思います。

平成29年度もあとわずかとなりました。今年度の成果は次年度へ確実に繋ぎ、課題は改善していけるように進めて参ります。教職員が一丸となって更なる良い取組に発展していけるよう取り組んでいきます。これからもどうぞ、よろしくお願いいたします。